



#### 4. 飼い主の居住地区

	頻度	パーセント
① 住宅密集地区	285	9.8%
② 住宅地区	2,254	77.6%
③ 商業地区	102	3.5%
④ 工業地区	19	0.7%
⑤ 農林漁村地区	155	5.3%
⑥ その他	31	1.1%
未記入	57	2.0%
計	2,903	100.0%

昨年とよく類似している。

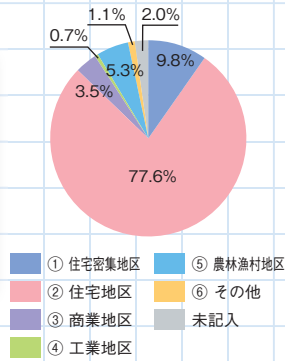


図3. 飼い主の居住地区

#### 5. 入手方法

	頻度	パーセント
① ペットショップ	996	34.3%
② 繁殖家等	781	26.9%
③ 行政・団体等	136	4.7%
④ 知人等	508	17.5%
⑤ その他	404	13.9%
未記入	78	2.7%
計	2,903	100.0%

昨年とよく類似している。ペットショップ、繁殖家等から入手する人が、昨年と同様に約60%で圧倒的に多い。多くの人が購入していることになる。それに対し、行政・団体等からの入手は5%以内となっている。

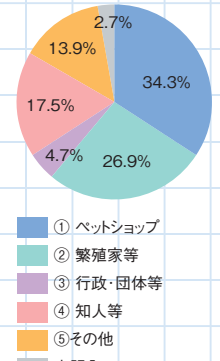


図4. 入手方法

#### 6. 個体識別 (複数回答)

	頻度	パーセント
有	1,974	68.0%
① 名札(鑑札・迷子札など)	1,805	62.2%
② マイクロチップ	167	5.8%
③ その他	49	1.7%
無	836	28.8%
未記入	93	3.2%
計	2,903	100.0%

個体識別をしている人が、昨年の53.3%から68.0%へ増加した。逆に個体識別していない人は42.7%から28.8%へ減少している。大きな進歩とも見られるが、マイクロチップの伸びは鈍い。

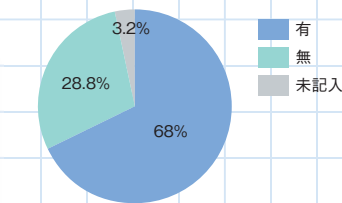


図5. 個体識別

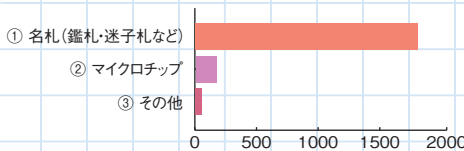


図6. 個体識別の種類

#### 7. 性別

	頻度	パーセント
① 雄	1,310	45.1%
② 雌	1,529	52.7%
未記入	64	2.2%
計	2,903	100.0%

昨年とよく類似しており、雌のほうが若干多い傾向。

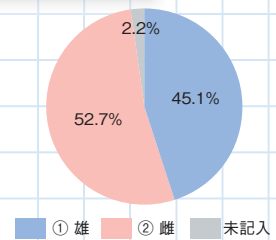


図7. 性別

#### 8. 犬口ピラミッド2008

年齢	雄	雌	年齢	雄	雌	年齢	雄	雌
0	33	50	10	69	80	20	2	0
1	72	79	11	48	78	21	0	1
2	103	110	12	46	72	22	0	2
3	98	110	13	43	44	23	1	0
4	124	132	14	30	28	24	0	0
5	115	131	15	18	16	25	0	0
6	103	130	16	11	8	26	0	0
7	96	93	17	6	6	27	0	0
8	94	113	18	7	5	28	0	0
9	66	94	19	1	1	合計	1,186	1,383

今回の暮らし向き調査研究で得られた結果の中で、最も意義深いデータと思われる。このような複雑なデータにもかかわらず、個体数は雌雄とも0歳で少ないが、年齢とともに増え、4歳で最大となり、以後、一部の例外(9歳雄、7歳雌)を除き、年齢とともに減少する。この姿は、昨年の結果と極めてよく一致している。年齢別個体数はかなりきれいなカーブを描いており、何らかの法則性(死亡の秩序)のもとに、年齢の高まりとともに死亡していくことがうかがえる。変動要因として、性の違い、不妊・去勢手術の有無がかかわっていることがこのデータからうかがわれる。また、もともと雌のほうが雄より少し多い傾向(飼い主の選択の影響か)が見られるが、4歳以上では年齢が高まるにつ

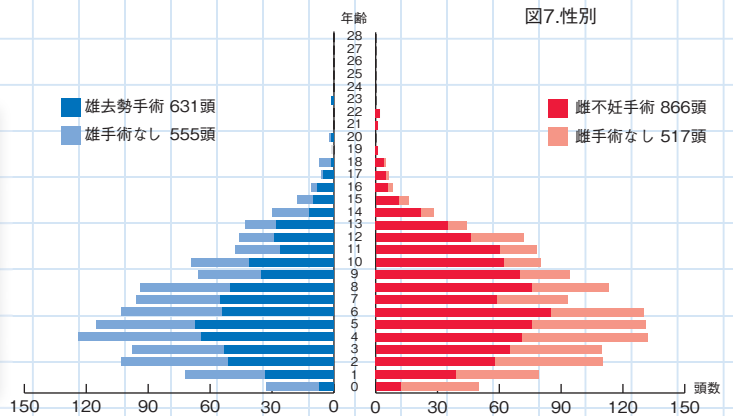


図8. 犬口ピラミッド2008

れ、生存個体数が雄よりも多くなり、雌で寿命が長いことがうかがわれる。また、雌は不妊手術をしたグループで明らかに高齢個体が増えており、不妊手術が寿命の延びに関係していることがうかがわれる。しかし、雌雄とも0歳では個体数は少ないが、これが年齢が上がるにつれて、4歳まで増えていく理由は何か、ぜひ、現場の方々のご意見をお聞かせいただきたい。0歳の個体数が少ないのは、0歳で死亡した場合には調査の対象から外してしまい、データを取らないということにならないよう気をつけていただきたい。調査開始後、1日でも生きていたら、データを取るようになっていただきたい。

#### 9. 不妊・去勢手術

	頻度	パーセント
① している(雄)	651	22.4%
② している(雌)	904	31.1%
③ していない(雄)	578	19.9%
④ していない(雌)	540	18.6%
⑤ 不明(雄)	9	0.3%
⑥ 不明(雌)	11	0.4%
未記入	210	7.2%
計	2,903	100.0%

不妊・去勢手術をしている個体数は雌で多い。手術をしていない個体数は雌雄で差がない。

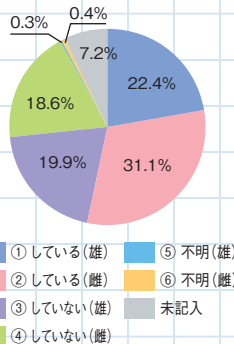


図9. 不妊・去勢手術

#### 10. 体型 (飼い主の判断による)

	頻度	パーセント
① 太っている	130	4.5%
② やや太っている	595	20.5%
③ ふつう	1,709	58.9%
④ やや瘦(や)せている	293	10.1%
⑤ 瘦(や)せている	80	2.8%
未記入	96	3.3%
計	2,903	100.0%

太っているかどうかの基準は示さないで、飼い主の判断により得られた結果である。

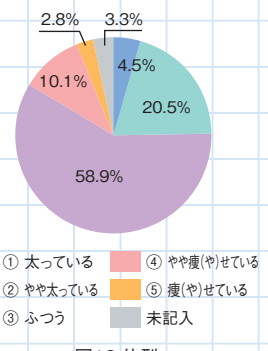


図10. 体型

## 11. 品種

品種	頻度	パーセント
⑩ 雑種等	65	2.2%
① シーブドッグ等	266	9.2%
② ビンシャー等	155	5.3%
③ テリア等	156	5.4%
④ ダックスフンド等	288	9.9%
⑤ スピッツ等	239	8.2%
⑥ セントハウンド等	76	2.6%
⑦ ボイディング・ドッグ等	19	0.7%
⑧ レトリバー等	379	13.1%
⑨ コンパニオン・ドッグ等	789	27.2%
⑩ サイトハウンド等	27	0.9%
未記入	444	15.3%
提出計	2,903	100.0%

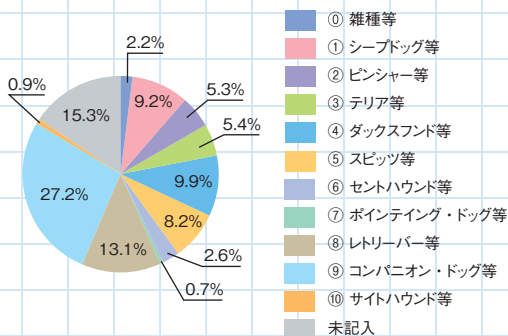


図11. 品種

- ⑩ 雑種、ミックス(不明を含む)
- ① シーブドッグ、キャトル・ドッグ(スイス・キャトル・ドッグを除く)
- ② ビンシャー、シュナウザー、モロシアン犬種、スイス・マウンテン・ドッグ、スイス・キャトル・ドッグ、関連犬種
- ③ テリア
- ④ ダックスフンド
- ⑤ スピッツ、プリミティブ・タイプ
- ⑥ セントハウンド、関連犬種
- ⑦ ボイディング・ドッグ
- ⑧ レトリバー、フラッシング・ドッグ、ウォーター・ドッグ
- ⑨ コンパニオン・ドッグ、トイ・ドッグ
- ⑩ サイトハウンド

初めて選択式で品種を尋ねたところ、小型犬に人気が集まっているような結果が得られた。一方、レトリバーなどの大型犬も人気がある。品種も寿命の長さとかかわる重要な要因の一つと思われる。

## 12. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	2,265	78.0%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	299	10.3%
③ 子供の情操涵養	28	1.0%
④ 家族のコミュニケーション	95	3.3%
⑤ 番犬	50	1.7%
⑥ 品評会	16	0.6%
⑦ 狩猟	3	0.1%
⑧ 繁殖	8	0.3%
⑨ その他	57	2.0%
未記入	82	2.8%
計	2,903	100.0%

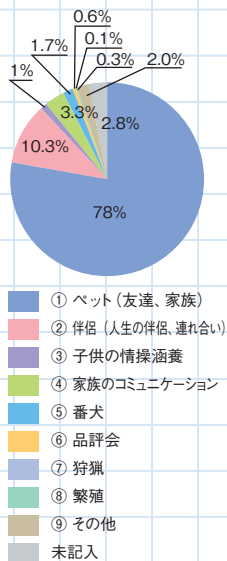


図12. 主な飼う目的・動機(1つ選ぶとすれば)

「伴侶」の選択肢に括弧書きを加えたことで、昨年に比べて飼い主の思いをうまく表わすことができるようになったのかもしれない。家族と考えている人は72% (読売新聞2005年7月12日) という報告との関連が確認された。

## 13. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

	頻度	パーセント
① ペット(友達、家族)	345	11.9%
② 伴侶(人生の伴侶、連れ合い)	700	24.1%
③ 子供の情操涵養	99	3.4%
④ 家族のコミュニケーション	923	31.8%
⑤ 番犬	150	5.2%
⑥ 品評会	16	0.6%
⑦ 狩猟	1	0.0%
⑧ 繁殖	31	1.1%
⑨ その他	91	3.1%
未記入	638	22.0%
計	2,903	100.0%

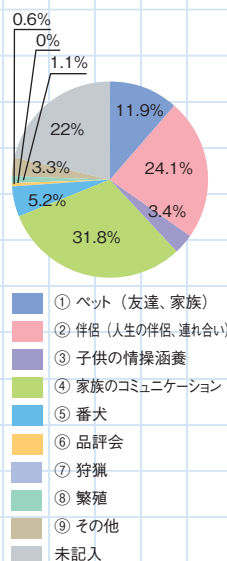


図13. 主な飼う目的・動機(2つ選ぶとすれば2つ目は)

1つだけ選択した場合に、隠れていた「家族のコミュニケーション」が現れてきた。

## 14. 飼い主の住居の形態

	頻度	パーセント
① 一戸建て	2,371	81.7%
② 集合住宅	458	15.8%
未記入	74	2.5%
計	2,903	100.0%

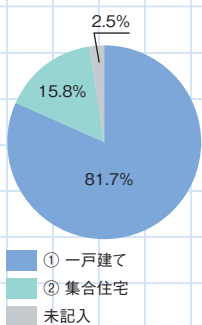


図14. 飼い主の住居の形態

昨年と同じ傾向。

## 15. 飼っている場所

	頻度	パーセント
① 室内のみ	2,032	70.0%
② 主に室内	434	15.0%
③ 主に室外	154	5.3%
④ 室外のみ	168	5.8%
未記入	115	4.0%
計	2,903	100.0%

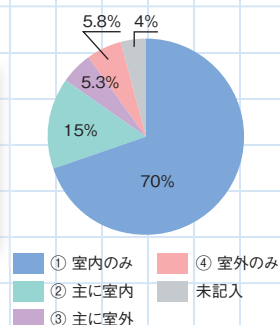


図15. 飼っている場所

昨年と同じ傾向。寿命との関連も強い。飼っている場所と品種の関係を調べる(クロス集計)。

## 16. 主な食事

	頻度	パーセント
① ドッグフードのみ	1,455	50.1%
② 主としてドッグフード(他に手作り調理もときどきまたは少しづつ)	1,066	36.7%
③ 主として手作り調理(他にドッグフードもときどきまたは少しづつ)	145	5.0%
④ 手作り調理のみ	71	2.4%
⑤ その他	66	2.3%
未記入	100	3.4%
計	2,903	100.0%

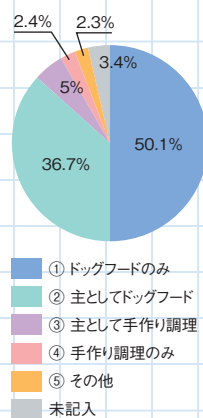


図16. 主な食事

昨年と同じ傾向で、ドッグフードを中心に与える人が多い。年齢、性、不妊・去勢手術との関連を調べる。

## 17. 主に食事を用意する人

	頻度	パーセント
① 男	376	13.0%
② 女	2,410	83.0%
未記入	66	2.3%
計	2,903	100.0%

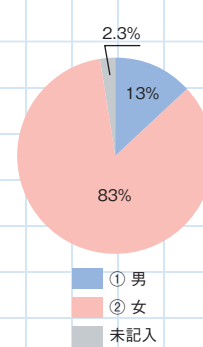


図17. 主に食事を用意する人

1. 「飼い主の性別」のコメントを参照。

### 18.食事を用意する人の世代

	男性	女性
20歳未満	13	23
20代	21	218
30代	37	485
40代	71	635
50代	99	646
60代	79	256
70代	32	71
80歳以上	9	16
合計	361	2,350

30代～50代の女性が中心。

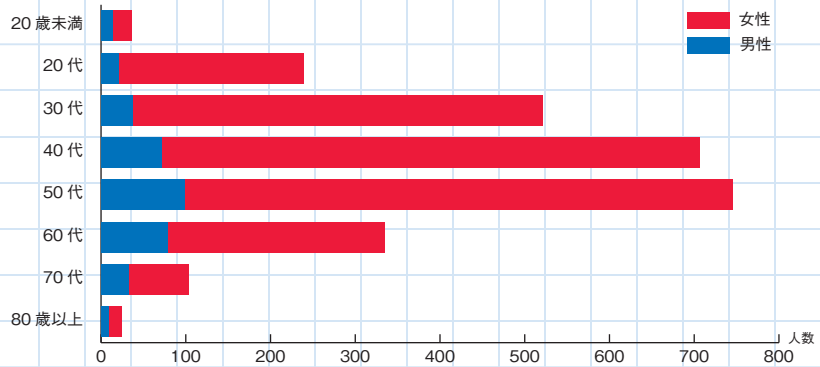


図18.食事を用意する人の世代

### 19.おやつ(しつける時に与える場合は除く)

	頻度	パーセント
① 与えている	2,260	77.9%
② 与えていない	548	18.9%
未記入	95	3.3%
計	2,903	100.0%

与えている人は77.9%で、昨年と同じ傾向。

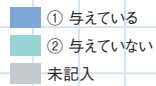
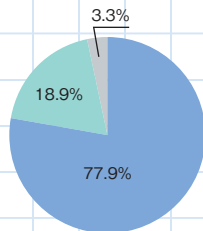


図19.おやつ

### 20.サプリメント

	頻度	パーセント
① 与えている	687	23.7%
② 与えていない	2,098	72.3%
未記入	118	4.1%
計	2,903	100.0%

昨年と同じ傾向。

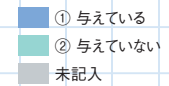
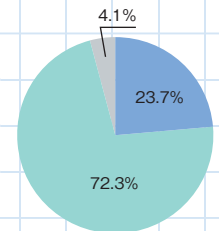


図20.サプリメント

### 21.散歩

	頻度	パーセント
① 毎日する	1,955	67.3%
② ときどきする	377	13.0%
③ たまにする	232	8.0%
④ しない	211	7.3%
未記入	128	4.4%
計	2,903	100.0%

昨年と同じ傾向を示した。散歩と品種の関係を調べる(クロス集計)。

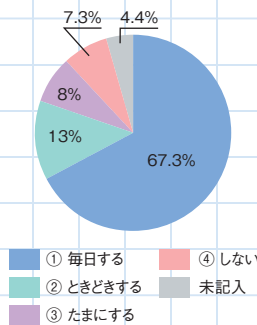


図21.散歩

### 22.散歩に連れて行く人

	頻度	パーセント
① 男	665	22.9%
② 女	1,923	66.2%
未記入等	315	10.9%
計	2,903	100.0%

昨年と同じ傾向。17.「主に食事を用意する人」よりは男性が多い。

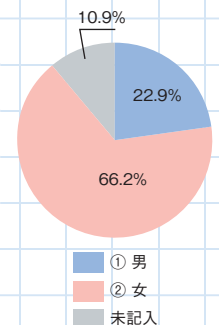


図22.散歩に連れて行く人

### 23.散歩に連れて行く人の世代

	男性	女性
20歳未満	13	21
20代	34	198
30代	64	399
40代	121	532
50代	173	483
60代	162	188
70代	52	48
80歳以上	9	8
合計	628	1,877

散歩に連れて行く人は、やはり30代～50代の女性が中心。

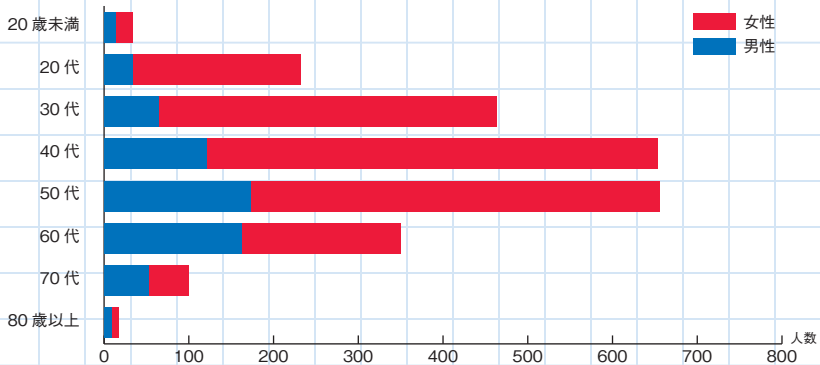


図23.散歩に連れて行く人の世代

以上、犬が飼い主や家族、生活環境とどのようなつながりをもって暮らしているかの調査研究の結果を概説しました。ほとんどの調査項目で、昨年と同じような結果、または傾向を示していることから、信頼性の高いデータが得られているものと考えられます。本協会の会員や会員のお知り合いの方が犬とどのように暮らしているかのデータは、それ自体興味深いことですが、この調査研究を真に価値あるもの

にするには、同じ個体について誕生から死亡まで引き続き調査研究を重ねることが望ましいことはいうまでもありません。そのためには、少なくとも10年、あるいは調査研究対象犬が天寿を全うするまでご協力を賜りますようお願いいたします。回を増すごとに皆さんにも、調査データのもつ価値の高いことがだんだんわかっていただけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。